

令和六年三月二十九日 希望の光勉強会

神 示

人間は 運命に重なる人生を歩み抜いて 「真実の光」に到達する  
その手だてとして 神はこの世に「希望の光」を開いた  
なれど 「真理」を人生の支えに生きぬ人々も多く

悔いを残して 人生を閉じている

信者に申す

明生の力に生かされる 「人生の真実」に気付いて

「教え」に生きる心を欠いてはいけない

「教え」が 信者の人生に 気付きを示す

信者は 気付きを悟りに高める努力をする

祈願を通し 「実体」を高める願いを 神魂に届けて 日々生きる

自然と心は安定し

「運命」に導かれた行動が取れる人間と 成ってゆく

「希望の光」を歩むことで 病気 事故・災難も避けられる

肉体に宿された魂は

「運命」の力となって 一人一人の人生を「正道」へと導く

運命に導かれた人生は

家族が「教え」に生きることと 実現して行く

夫婦 親子の運命・実体が重なり 支え 補い合う 家庭で

運命は磨かれる

時に 家族の心に反駁が生まれても

「真理」があれば 悟りと返る